

## 2022年度第2回鋼材規格三者委員会 議事録

1. 日時： 2022年7月28日（木）13:30～15:00

2. 場所： Web会議

3. 出席者：（敬称略）

委員長：榎（東京大学）

副委員長：緒形（物質・材料研究機構）、田中（東京理科大学）、藤原（EMF応用計測）

委員：沖（建築研究会）、小野（日本分析化学会）、小野寺（日鉄SGワイヤ）、河口（不二越）、栗原（日本伸銅協会）、桑原（東京農工大学）、後藤（大同特殊鋼）、近藤（日産自動車）、酒井（神戸製鋼所）、桜井（日本鋼構造協会）、種物谷（高圧ガス保安協会）、堤（日本規格協会）、戸上（日本アルミニウム協会）、富永（三菱重工業）、中澤（JFEスチール）、林（元理化学研究所）、藤井（日本試験機工業会）、藤田（栄）（北海道大学）、藤田（慎）（日本金属継手協会）、松本（聡）（日本製鉄）、山口（九州工業大学）

（委員長・副委員長・委員計25名）

欠席：相川（日本水道協会）、熊井（日本検査キューエイ）、富山（土木研究所）、松本（和）（日本海事協会）、山田（東京大学）

関係者：伊藤（隆）・伊藤（実）（経済産業省）、甲斐（国土交通省）（関係者計3名）

幹事：玉田（鉄鋼連盟）

事務局：寺澤・石川・楠野・井田・山本・越川・齋藤（鉄鋼連盟）（事務局計7名）

### 4. 議題及び配布資料

#### 1) 報告

資料1-1：2022年度第2回鋼材規格三者委員会 名簿

資料1-2：2021年度第3回～第5回・2022年度第1回鋼材規格三者委員会議事録

資料1-3：2021年度事業報告及び2022年度事業計画

#### 2) JIS規格審議

<改正>

資料2：JIS G 3302 溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼板

資料3：JIS G 3317 溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板及び鋼帯

資料4：JIS G 3321 溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯

資料5：JIS G 3323 溶融亜鉛-アルミニウム-マグネシウム合金めっき鋼板及び鋼帯

資料6：JIS G 3314 溶融アルミニウムめっき鋼板及び鋼帯

資料7：JIS G 3117 鉄筋コンクリート用再生棒鋼

資料8：JIS G 3467 加熱炉用鋼管

資料9：JIS G 3477-1 ポリエチレン被覆鋼管-第1部：外面3層ポリエチレン押出被覆鋼管

資料10：JIS G 3477-2 ポリエチレン被覆鋼管-第2部：外面ポリエチレン押出被覆鋼管

資料 11 : JIS G 3477-3 ポリエチレン被覆鋼管—第 3 部 : 外面ポリエチレン粉体被覆鋼管

資料 12 : JIS G 0556 鋼の地きず肉眼試験方法

資料 13 : JIS G 0566 鋼の火花試験方法

## 5. 議事内容及び結果

委員、関係者及び幹事の交代の紹介、並びに榎委員長のご挨拶の後、以下の議事が進められた。

**5.1** 幹事から、委員会名簿及び 2021 年度第 3 回～第 5 回・2022 年度第 1 回の議事録が報告された。これらの議事録は、会議後に既に承認されており、特にコメントはなかった。

**5.2** 寺澤事務局長から、2021 年度事業報告及び 2022 年度事業計画について報告された。

**5.3** 審議案件の改正 JIS 案 12 件について鉄鋼連盟の事務局より内容が説明され、以下の質疑応答があった。

1) JIS G 0566 に関して、前回から 42 年ぶりの改正となった理由について確認され、本規格が鋼材の取引に直接使用されておらず、また、本質的な技術の変更がなかったためと説明された。併せて、計画的に古い規格の改正を進めていることが報告された。

上記の他、原案修正点は、規格ごとのコメントテンプレートに記載されたとおり、修正することとし、いずれも承認された。

### 5.4 その他

幹事から、次回の鋼材規格三者委員会は 12 月 21 日（水）に開催することが説明された。なお、必要に応じて、臨時案件についての書面審議を行うことを確認した。

以上